

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日： 月 日

○印  
A B C D **E** F

点を提出しました

学生番号 氏名  
8256 本間 美雪

タイトル  
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。  
夜の山 パルティッス山へ

すごく好きな絵だと思いました。私はクレーの絵が好きで、特にこの絵のよう  
な点々と四角の絵がとてきれいなと思います。黒と白の線が山と登山道  
のようにも、三角屋根の家にも見えて面白いなと思いました。黄色いまるが太  
陽にも月にも見えて面白い絵だと思いました。絵が抽象的なのでいろいろ解  
釈ができて面白いなと思うし、他の人の解釈も見たいと思いました。私は  
黄色いまるは月でまるの上の赤いぽいものは月にかかる雲かなのではないかと  
思います。まるのまわりの青いぽい色は夜の空かなかなと思います。上の三角は  
私は山だ」と解釈しました。前の門は門かなのではないかと  
思いますが、どうして山の下に門があるのかな  
と思いました。もしかしたらこの山はとて大事な山で山に入るときに  
入山許可をもらって人しか入れないという門かなかな  
と思いました。でもどうしてクレーが点々と四角と少しの線で絵を表現  
しているのかがわかりませんでした。ただ絵全体がとてきれいで、もし私が  
大富豪だったら是非家に飾りたいと思いました。

UTRを聞いて上の山がピラミッドなのにおどろいたし、なるほどと  
納得しました。そう言われるまで全然そうは思っていなかったのですが、そ  
う言われるとなるほどピラミッドにしか見えなと言っていてくらにピラミッ  
ドのかたちをしていて面白いなと思いました。下の門が想像の世界への  
扉という解釈にはなるほどと思ったし絵の中の世界と合っていて面白いな  
と思いました。クレーが子供の絵を目指していたのはとても納得しました。ピカ  
ソも子供の絵から感想を得ていると思ったのですが、同じ子供の絵に影響  
を受けていてみんなに絵に変化があるのかと面白く思いました。黄色いま  
るが一体なんなのかわからないままなのでとても気になります。

この用紙は、必要な枚数を自分で  
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月 8日

○印  
A B C D E F

6 点を提出しました

学生番号 氏名  
8230 小山 詩みらい

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。  
夜中 (Ad Parnassum (パナッス・グレー))

ii 絵の具を使わずに 色かうフルな素材を あつめ、貼りつけたように見えた。  
色を沢山あつめた情報量とあふれさせ家の様な形を構築していること  
から沢山の家族がこの位に住んでいるように感じとれる。  
夜の家に屋根の上に浮ぶ青、オレンジ色の素材が使われることで夜  
の家に朝日がともされ人が住み、たんらんしているふんいきを感じられる。  
また、線がそのみに黒い線を引き、あんまりと分けている表現を見ると和意  
・ かなたの空の青味をたして分けられようように見受けられる。  
三角、直線、点、線、少ない表現で大量の情報も流れているのが特徴つ  
として見受けられる。

VTR

ii 線の詞人と呼ばれるのは納得のいく作風だと感じた。またその通りで自由すぎる  
線の動き、表現からも線(絵画)が歌、ているように見える。  
"描いている" というより線を引くことに目を向けていて、月に見えるモノを見るように  
している。子供の頃に可能であった自由を背景にしていることにも納得。  
彼にしか表現できない作風というのは当前であるが彼にしか引けない絵だと強く  
主張したくなる。想像では、「この作品のモチーフは家であろう」と思っていた  
ので、この作品は実際エジプトへ山を見に行きその後作り上げた山を  
モチーフにしていたというところから隣の月だと思っていたモノも太陽だといつこと  
がわかった。VTRの中では更に彩度が落ちるように見受けられ、  
色がぬれたとびらは水面に映りにお山、山の色合いは日本で見ることので  
きる富士山のようにも見えた。自由がきいている作品ということで見え方は  
人によって沢山の意見でわかるようにも見えた。  
絵を描くという固定的な型にははまらずに、絵を引いて作品を作り  
上げた後にできあがったモノは面白いモノだと思った。

この用紙は、必要な枚数を自分で  
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日： 月 日

○印  
A B C D **E** F

5 点を提出しました

学生番号 氏名  
8242 嶋崎 楓花

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

パレットツツス

178

素材として、独特な印象を受けられる。束しゆりのような描写  
が印象的だ。 暗い色合いの中に、オレンジ色に光る月のような  
ものがある。 黒の直線で描かれているのは家のようにも見え、  
山のように見える。 横切っている赤と白は、雲のように見える。  
上部に位置する方は月の色が反射して赤く染められているように  
感じられるが、下部の方は白がかった。 辺りが暗がり  
なので、雨上がりのもやがかかっているような感じに感じられた。  
これは、不安とその不安からの解放というふうな感じの表現  
が表れているような気がした。  
点種それぞれで色が違うことで、同系色ながらも様々な  
色が混ざり合っているので、自然の色が抽象的な絵画  
でありながらも表現されていると思った。  
「パレットツツス」とは、山の名前だと思った。 三角屋根の形の  
ものが山であるならば、下の扉のようなものと斜線には一本  
何だろう。 ここをくり抜いて、奥に行ける気がするのは、  
平面的で抽象的な絵画であるのに、不思議な表現だ。  
解説VTRを見て、クレーの絵は想像の趣くままに  
線を引いた、自由な世界を表現したものだということか  
わかり、納得した。 目で見てわかる、対象物を明確に  
することが絵画表現の全てではないことか、この絵  
で学べるのだと思った。  
私がこれは一本何だろう、と考えたことは間違いではなく、  
しかし絵画というものを鑑賞するにあたって間違いであること  
がわかり、クレーの想像の世界を知ることかできたのだと  
思う。

ここまで収めること（裏面には書かない）

この用紙は、必要な枚数を自分で  
コピーしてから記述してください

## 美術感想文

手書きする

提出日： 月 日

○印

A B C D **E** F

図

2

点を提出しました

学生番号

氏名

8235

小野由人

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

タイトル

「月が照らす家」

ふつふつ。ぽちぽち。とんとん。と小さな粒が並んでいる。それらはこの絵に  
おける重大な構成要素の一つであろう。でも、もっと気になることは、月がきれいすぎ  
ることだ。月はほとんどきれいな丸で右半分は美しいほど丸く、左半分もとても丸い。  
そして大事なのが、粒々ではないのだ。何故？ おそらく月を見たことがなかった人だろう。  
だって月の表面の方よほど粒々でゴツゴツしているのだから。と思ったところでこの絵  
の大きさははたしていかほどなのか、もの凄く大きくて、この粒が一つおきに「カササキ」  
ならば月の丸はちんと丸にしたいし月の上部の枝や扉も近くで見たときの質  
感とは別の本物として鑑賞者をおどかさなくてはならぬ。夜の月と昼の月と朝  
の月があるとするは、この月は夜の月。光が注ぐ扉が明るくなって夜の風景に見える  
けど、温かい印象を受ける。温かいと言ったがそれは月の明かりのことでこの絵には  
人間が温かいと感じる要素の一つを持っている。それは人間だ。人間は人間で  
温かいと感じるはずだがこの絵には人と認識できるものは一切無いのだ。ただ  
描き手と鑑賞者と絵の中の家を作った人だけが鑑賞というシーンにあっては存在している。  
つまり私が感じた温かみは作者の筆のタッチからその空間に人がいたという温みの  
名残りがたろう。こういう抽象的の絵は、子どもがその絵のように作者の中でしか正しい答え  
はない。だからこそその自由な解釈だが、そこへいくと黒い紙で家の輪郭を描いて  
あり、月も月と分るくらいに描かれている。これが誤解を招く要素の排除なのか、たとす  
れば月の上の枝は雲にも見えてしまう。自由な解釈をさせる部分と揺らがないものが  
ハッキリあってよいと思う。

○印  
A B C D **E** F

**6** 点を提出しました

学生番号 8239 氏名  
坂本 真基

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。  
タイトル  
「バベルツツスへ。」

1行目 解説を見た前の感想

・ 三角屋根の家 のように建築物に無敵のまじりのように  
ものが ついてくる。 見た時、ポティチェリの「バベルの塔」  
「地獄」 のように感じました。 無敵の小さなものが  
集まり群れをなす姿には大変、大きなパワーを感じます。  
家の上には月がわり、優しく家を抱かれています。  
月と三角屋根だけ見ると、エジプトのピラミッドのようで  
あります。 全体的に優しい感じの絵というよりは、  
どこか神秘的な、不思議な作品でもあるようにです。

解説を聞いた後の感想

この作品は、作者がエジプトへ旅行して、帰宅した直後に  
制作し始められた作品のようです。 つまり、この作品はエジプトの  
ピラミッドを表現 しています。 彼から見たピラミッドは、この絵の  
ように 幻想的 なものであり、ピラミッドを 自身の目で見た時の作者の  
少年のまじり 瞳が想像 できます。

また 油絵画的にも優れたものであり、色の深みがよく感じ取り  
ことができます。 油絵具の重奏による色の深みが素晴らしいと  
思います。

また、空に浮かぶ月と、三角屋根が相まって、エジプトのパズ  
ラピソンスのような世界観を造りだしており、とてもロマンが  
溢れた作品であると思います。

実際に自身の目で実物を見たくなりました。  
本物に触れたい、本物の質感、色の深みを知りたいです。  
今後の自身の制作活動に活かしたいと思います。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分で  
コピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日：6月 9日

○印  
A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名  
8241 小野寺 海香

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

タイトル

月光

右上にあるオレンジ色のまるは、一瞬夕日にも見えたの  
だが、周りが青を基調としているため、夜のイメージがつい  
た。夕日のようなそのオレンジは周りの青に負けずに暖  
かさを放っている。三角の直線線は家の屋根を連想させ  
るような形で、下の黒い曲線は家のドアを表現している  
ように見える。画面全体がまるでパッチワークのような色づか  
いになっていて、さらに点描なのか、モザイクアートのようにも  
見える。印象派の画家だろうか。点描にしては点の配列が  
とても美しく、まるで布の縦糸と横糸のようだ。縦糸透にも  
見えてくる。全体的に青色を多く使っているせいか、さみしい  
ような画面にも見えるが、オレンジなどの暖色と混ざり  
合っているからなのか、パッと見た時に優しい雰囲気を感じる。  
直線と曲線のシンプルな構成だが、何か絵には複雑  
なものを閉じ込めているようにも感じる。

(2) 映像を見て、この絵はグーのバルタツス山という  
タイトルの絵であった。一番に目についたオレンジ色のまるはさほ  
ど重要でもなく、家の屋根だと思っていた三角の直線で  
表されたバルタツス山が最重要であった。このような直  
線の絵には子供の色や形にしばられない自由な線を求  
めるグーが出てくるのだなと思った。この子供、ほさが暖  
かみや優しさをつくり出していたのだと思う。眼に見えるものを  
再現するのではなく、見えないものを眼に見えるようにするというグーの  
考えから生まれた極限まで線を単純にしたバルタツス山の  
絵は、モザイクやその線があるからこそこんなにも幻想的に描  
かれているのだなと思う。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分で  
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月4日

○印  
A B C D (E) F

2 点を提出しました

学生番号 氏名  
8232 加藤 綾

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

タイトル  
「パルチッソ山へ」

(1) 色づかいがとてきれいで美しいと感じる。シンプルのようにはみえて、  
細かく描かれている繊細に目が離せなくなってしまう。ブロックとして  
青やオレンジ、茶色の色がツレツレ違い、そのグラデーションが美しい。  
直線と曲線がはっきりと分かるように描かれており、  
それによって色の美しさがより引き出されている。暗い色で石土に  
描かれているのは月？太陽には見えないので自分は月と解釈しました。  
というとは夜の静寂さを描きたかったのではなか、  
使われている色は暗い色が多いため、その分オレンジ色や白が  
目立ち、とて安心して居るような、落ち着けるような雰囲気  
感じられ、好きな絵。

(2) "線を絵にする"というところをすこ意識して描かている  
というところから、人にも線が魅力的で引きつけられる  
理由が分かった気がします。  
描かれたものがどうも独特な感じがした。改めて絵を見ると  
エジプトの独特な世界感が伝わり、やはりそれを  
感じさせるのは色だなと感じました。  
音楽的要素が感じられるほど細やかなタッチと色づかいに  
クレタならではの魅力を感じさせる、という話に共感しか  
ありません。クレ自身に音楽や詩的世界を投影させた、  
という話から、絵画だけにとどまらない要素を取り入れる  
ことのできる技力で、だからこそ表現できる美しさは  
あがれをいただきました。

○印  
A B C D **E** F

点を提出しました

学生番号 8217 氏名 岡 ことの

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。  
ハルナリス山へ ハウル・グラー

一行目

この絵を見たとき、砂漠だと思いました。夜の砂漠、月の砂漠、  
ハルミラ遺跡や ヘルセポリスの王宮、ウル、ウル7、それから死海やマク  
遺跡のこと、大好きなサロメのことを思い出した絵。砂漠の夜は静かによ  
う。その静かさは千と何百年も何千年も昔の人々が知っていた静けさ  
と同じでしょう。夜は、その夜下には別の夜とつながっていると思  
います。死んでいる人たちの言葉が残っていると思います。絵の中の白  
や青の点は 日干しレンガだと思いました。人間が積み上げたレンガ。も  
しくは漆喰や 石板、粘土板に刻んだものの跡。モザイク画。街も、文  
明も、宗教も 人間が作り出したものです。人間が作ってきたもの  
の光。燃やされたり、壊されたり、朽ちていたり、また作られたり、  
姿を変えてゆくものの上で、月だけは平と同じ。だから月だけはレン  
ガでもモザイク画でもなにも描かれ方をしているんじゃないかと思  
います。11つもの夜が 重なって重なったら、こう見えるかもしれ  
ない。たくさん人の声や、手や、骨が 重なったレンガの本当の姿  
かもしれない。私たちが死に絶えたあと、夜は 二の海を  
続け、死者の言葉や世界の記憶が 11つまでも繰り返されるの  
かもしれない。そう思いました。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日 6月 9日

○印

図 A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 8229 氏名 梅津 播有

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

タイトル 月夜 (自分で考えました。)

① 最初に思ったことは、絵ではなく刺繍だと思いました。青や黒、オレンジやライオン、茶色など、暖色も使っているのに暗い印象を持つのは私の中で「これは夜の情景だ」と勝手に決めつけているからだとわかっています。空には浮かぶ「月」建物らしきものの壁に反射して月の光がキラキラと光っているように見えます。ま、この絵の中は「た」として「居る」は何か良いのではなかと思う。

② エジプトの旅行で描いた作品ということで「ピラミッド」と見えます。「門」のようなものも「ピラミッド」にある出入口に見えます。ブルーが描き出せる色彩、表現の作品はモザイクという技法。いったいどこからで「くるのか」ブルーの作品を見ても毎回のよう描き方を変化させていて見ると楽しくなっています。ブルーの作品は近づくと何と何を描いているかわかりませんが、遠く離れて見るとまともな「生きた」物体としてわかりやすくなるということも今、発見しました。近づくたびに色も使っていて、これは本当に合うのかなと考えました。少し離れて見ると色もキレイに混ざっていて何一つとして邪魔をしていない。

私はいつも描き方に幅を持たせようとして、結局はいつもと同じになっちゃうのですが、これから何事も試してみよう、表現の幅を広げていきたいと思います。

○印  
A B C D **E** F

5 点を提出しました

学生番号 氏名  
8207 高木 梨帆

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。  
パルタツリスル

(1) 6つの作品を見たときに、紙巻のような細かい模様にはじめての  
一番最初に選びました(家のキッチ=マットの柄とよく似て)。

パルタツリスルは地味(?)なのか、描かれている物は何なのかの詳細  
は分らなかつたのですが、満月があり夜だということと建物があり  
余計なものを描いて印象を受けました。街頭を歩いている  
景色の中に、細かいドットの青と黄色を混ぜる  
ことで、満月の光が輝き明るく照らし出し、また無数の星の光に  
も見えるように思いました。

近づくほど情報量が少なくなるとは、荒れさが強くなり建物  
(建物)のアウトラインも薄れただけで、遠くから見るとアウト  
ラインもなくなり遠くに見える、「パルタツリスル」の「これだけ遠く  
場所からの視線」の様には、二点を見た(作品の中の)と  
同じ視線に近づき、おどろきと同じ気持ちになるような気  
分になりました。また、遠くから見ると、青と黄色の少し離れた  
色でも邪魔しあわずに混ざり合い、月の光が原色から一面に広が  
っているように見え、よりいっそうキレイだなと思いました。

青と黄色とどちらにも悲観的でマイスターピースが強調されて  
いるけれど、この作品の中の人にはマイスターピースが月の光りのよ  
うなプラスの感情を持ち、パルタツリスル行の決意の瞬間の瞬間を  
感じました。でも、満月という事は、二点から「欠ける」  
部分があるので、中の人に対し不安を感じました。中の人にも不安と希望  
が混ざって不安定な感情になるのではないかと思っ  
ました。

○印  
A B C D (E) F

5 点を提出しました

学生番号 氏名  
8205 横谷 梨穂

タイトル  
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。  
Aunt's Room (パウル・クレー)

一行目 東南アジア系系の国の夜というイメージの作品に思っています。三角屋根の建物と月、薄い雲があのように見えました。また、どのような種類の作品なのかわかりませんが、編み目のようなものが見えたので編みものように感じました。どのような作り方をしたらこのような作品が作れるのか不思議に思いました。また、部分部分が色で区別されていてタイルのようになっていたのもおもしろいと感じました。東南アジア系系の国といっても最近の近代化が進んだような時代ではなく、まだ近代化が進んでいない過去の風景、あるいは遺跡の風景のように感じます。建物も石造り、木造りのもののように感じました。寒そうだったり、少しこわいような雰囲気はありますが、おだやかな夜の時間、という感じにして私は好きです。人があまりいない、秘密でおどろきの空間だと思っています。

「色彩の音楽家」という異名にもらったような作風だと感じました。「見えないものを見えやすくする」ということで微妙な色彩の変化がもたらしているのかもしれないと思いました。三角部分の「ピラミッド」からインスピレーションを得て、ギリシャ神話内の山を描いたということで、私が「遺跡みたい」と思ったのは、何かしら作者のどのような意図を扱ったのかでまたからなのだろうか、と思うと何だか嬉しくなります。絵画内の門をくぐれば、作者が求めた「見えないものを見えやすくした」鮮やかな世界を見ることのできるのではなかろうかと思いました。

図	○印					
	A	B	C	D	Ⓔ	F

6 点を提出しました

学生番号	氏名
8215	田島 梨

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

タイトル 青

(1) これは、家...?なのだろうか。右上にある黄色の円は夜空に浮かぶ月で、その下に引かれて画面上辺でぶっかかり角を作っている黒線が屋根。画面の真ん中あたりの白いのが屋根と外壁の境目で、その下のアーチ状の黒線が、扉...? 扉目だ。こうすると、アーチ状の黒線から上方向に斜めに伸びる線の説明がつかない。それに、真ん中の白いのを屋根と壁の境目とするのも、いまは納得がつかない。だって、少し斜めになっているではないか。これでは穴窟住宅だ。これを家の絵だとする考えは、一旦捨てる方が良くないかもしれない。しかし、だとして何だというのだろうか。画面の真ん中の白いのは、光のようにも見える。どこから、光が差しているのかもしれない。又、画面右上の黄色の円のすぐ上にも、似たような開きの縋みを帯びたものがある。これは、雲のようにも思えてくる。この黄色の円は実は夕焼けで、それに照らされて朱くならした雲ではないのだろうか。でも、もしこうだとしたら、結局この絵には何が描かれているんだ...? 分からない。もしかしたらこんな事をうたうたと考えること自体が、野暮なのかもしれないと思う。しかし、考えずにはいられない。こんな作品だ"と感じた。

○印  
A B C D **E** F

5 点を提出しました

学生番号 氏名  
8203 姉崎 由奈

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

パルナツスへ (パルナツ山へ)

一行目

このパウル・クレーの絵は以前見たことがあります。初めての絵を見た私は絵だけでは何を表しているかわかりませんでした。しかし、当時の私は題名からどこかへと向かう道の絵なのだとして解釈しました。黒色のへ字型の線はピラミッドのような建築物を、中央に白い線で描かれているのは坂道。そして下部にある黒で描かれた線は自分がいる場所、出発地であると幼い私は考えていました。この絵もピラミッドへとつづく道筋、地図を表した絵があると思っていたのです。10年以上経ち、改めてこの絵を見ると今度は異なるように見えました。今回は題名ではなく、絵中心に考えていたのです。やはり一番目に見える線は黒ですからその線を中心として脳内で絵が組み上がります。今の私にはこの絵は家に見えました。へ字の線は屋根、下にある黒い線はドアです。しかし、全ての見方が変わってしまったわけではありませんでした。右上のオレンジの丸は太陽であることモザイクをかけたような色合いが何を表しているのかわからないということは前も今も変わりませんでした。私的には今の解釈よりも幼い頃の私が想像力豊かが好きです。

解説VTRを観ました。私はパウル・クレーの絵が好きですが、抽象画のイメージが強く、線と色彩の達人のような言われおしていたのを初めて知りました。また、自分の絵について模索しているうちにあの独特の絵になったことも知っていましたが、子供の絵という原点へ戻ったということを知り、なんだか腑に落ちました。私が幼い頃に考えていた解釈が案外クレーの考えに近く驚きました。ピラミッドを題材にしたというのが同じであったことが彼の描いていたときの考えに近づけたようで少し嬉しい気持ちになりました。絵のモザイクの1コマ1コマが絵具で描かれているように、ひとつひとつの色を細やかに混ぜてできあがっているとわかりました。点々で絵を描いている人がいた気がするのですが、それと似たものを感じます。下の門のようなものは出発地点というより、死の世界への入り口ではないかと語られていました。青系統のモザイクは死に関する意味も含められるかもしれません。

○印  
A B C D E F

4 点を提出しました

学生番号 8294 氏名  
佐々木 文峰

タイトルの欄  
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。  
夕方の船場

青をベースとした点画の美しさはもちろん、そこに  
ひかれた黒い線が、淡い画面をぐっと引き締  
めていて、バランスがいい作品だと思った。  
よく見たら様々な色の要素があるのに対し、  
絵自体は1つの作品として統一されていて、  
絵画というよりは音楽的なものを感じた。  
この絵を見て、いらすと、ゆったりとした時間の  
中にいるような、何だか懐しい気持ちになる。  
その時、海を思い出した。祖母の家へ行  
く途中、父が海岸へ寄り道をした。その時  
はちょうど夕方で、赤い日に照らされた海  
面が光を反射し、美しく輝いていた。あの  
時受けた印象と、この絵を見たときの印象は  
よく似ていた。心の奥でじんわりと広がっ  
ていくような暖かさ。一日が終わろうとして  
いる、不思議な寂しさ。この絵が夕日を描い  
たものでなかったにしても、作者もそんな  
感情を抱いていたのだろうか。そしてその  
気持ちをそのまゝ画面へと写したからこそ  
あえて具体的な形がこの絵にはないのか  
もしれない。もしも私が作者だったらそう  
したい。表現するなら、美しい景色よりも、それ  
を見たときにわき上がった感情の方が、き  
と後になっても鮮明な感覚として残ること  
ができるから、そう思う。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月4日

○印  
A B C D **E** F

5 点を提出しました

学生番号 氏名  
8212 安藤美羽

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。  
タイトル  
自分で考えたタイトル  
「移り変わり」 / 「パルティウス山」

**最初の感想** これは絵か?と思った。小さいピースを貼りつけてあるのかと  
 思った。ピースのようなキラキラした絵である。青とオレンジでまわっていて、  
 描かれた線がシフトで洗練されているように見える。青とオレンジの  
 色は、朝と夜を表したかの様に見える。朝と夜が交じわるような、そんな  
 時の移り変わりを表したのかとも思う。黒ではっきりと描かれた線は、  
 上に三角があつた下の右にある線がドアのように見えることから、家に見  
 える。また、そのドアの様なもの横にとがった形があるのが気になる。  
 このとがった形は何を表しているのだろうか?と疑問に思ってみたら、  
 線では描かれていないが、白っぽいとがった形とオレンジっぽいとが  
 た形も隠されている。この形は一体何を表しているのか?とも気に  
 なる。最初にピースかと思ったが、これはガラスのようにも見える。  
 何かを貼りつけていたとしても大変だと思ふが、描いていたらおどろいたと  
 思った。そんな統一された線と色の中に、はっきりとしたオレンジで  
 正確な円で描かれた月?太陽?はとも目を引く。

**解説を聞いて** フレーは線を愛しているのだと思った。  
 線はどこから絵となるのか、という疑問が解説であったが、  
 このフレーの「パルティウス山」はきちんと絵として成り立っている  
 線であると思った。ガラスのように見えるモザイク画が1つ1つ  
 描かれたものを知って驚いた。1929年のエジプト旅行の数年後  
 に描かれていることとピラミッドが重要な役割を果たしているということ  
 で、あのとがった形はピラミッドを表したものであるのかと思った。  
 この絵に描かれたドアが死者の世界への入り口とも彼方の世界への  
 入り口とも言われる重要なものだという事に驚いた。  
 たしかにフレーの絵の線には線を使いこなす彼の力強さが感じられる  
 と思った。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月4日

○印

図 A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 8233 氏名 越浪 実柚

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

生きる

(1) はっと見、これは夜で、家があって、でも太陽があって、これも月？世界観がすごく私の好みです。全体的な色は青ですが、細かくよくみとみると柄がついていてモザイク模様です。これは、時間のうつろいの変化を表しているのだと思います。よくみると右の空？の部分に切り込みが入っていて、そこだけオレンジ色です。夜から朝になる朝焼けの表現でしょうか。更に、入り口？の形は何を表しているのでしょうか。全くわかりません。抽象画(?)で好きなのは、こら、ういくら考察しても何がどうなのかわからないところですね。よくみると家(?)の中にオレンジ・白が多くつめられているのは、家の安心感、暗い夜でもいつでも帰る場所があるということ表現しているように思います。よって、生きる場所はここにある、という表現ではないでしょうか。見ていて楽しい絵にも思います。見た人がやはりあります。

「パルチザノ山へ」

(2) パウル・クレーのこの絵は「色彩」が大きな意味を表していること知り、家だと思っていた自分の視界のせまさを実感したようです。「子どもの色にも形にも縛られない世界が絵画の原点」であることは確かです。子どもだからこそ現実ではなく見えないものをみえるようにする能力に長けている。それを大人が再現することでまた違った見え方が見えてきて、やはりこら、うい、くら、抽象的表現の奥深さは測りしえません。15,000を超える色のモザイクによって絵を表現するということにはクレーの今のまでの経験があるからこら、うい、くら、です。「眼に見えるものを再現するのではなく、見えないものを眼に見えるようにする」これは私の作品制作も絶対生かす言葉です。他のクレーの作品も見てみたいですね。いくつか作品のまえがきにすわりのなごら、うい、くら、観望し、い、くら、思わせの細かさが良いです。更に線での表現、というの自分からクレーの表現がみえて、私持ちが、うい、くら、です。

○印  
A B C D **E** F

5 点を提出しました

学生番号 8201 氏名 稲辺 みのり

タイトル  
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。  
自分で考えたタイトル: あいまいなパルチリス山へ

この絵は初めて見ましたが、好きです。微妙な色合いがとてもきれいで、遠くからパッと見たら、抽象画かな?と思ったのですが、黒い線やオレンジの円が描かれており、何か形のあるものを表していることがわかりました。私には家と太陽に見えます。三角の屋根とドアに見えたからです。もしこれが本当に家を表しているとしたら、こんなにも少ない線で観る者に理解させられるのは、簡単そうに見えて技術のあることだと思えます。私が「ドア」と思った曲線を含んだ線が右上に向かって伸びているのはなぜなのか、なにを表しているのか気になります。オレンジ色が線の間に残っていて、太陽の光がそこに集まっているような印象を受けました。もし右上の円が太陽としたら、どんな風に光が当たっているんだろう?という疑問を抱きました。黒い線では白っぽい線が描かれているモチーフが2つあります。突っ立った三角形の先っぽみたいなもの。ひこうき雲か、流れ星か、それとも目には見えないものなのか?よくわからないけれど、モチーフ的な情報量が少ないこの絵の中で、意味を1つ持っているのだからいいかと思えます。そして、何よりこの絵で印象的なのが、平面的に色と点で描かれていることです。おそらく、つくさんの四角形のブロックを様々な色で塗って、その上から様々な色を使って点を置くようにして画面をうめついているんだと思います。こんなにつくさんの色が使われているのに、全体的に統一感があって、それはやはり難しいことなのではないかと思えます。モチーフの固有色は無視して全体がそのように描かれていて、私にはそこに空気感、空気の温度のようなのを感じました。青がつくさん使われているのに、なぜか温かさを感じます。時は夕暮れのようにも見え、早朝にも見えます。何を描いているのか、それはつくさんとよくわかったのですが、そこに作者はどのような思いを重ねたのか、それが読み解けない作品でした。でもだからこそ、そこに不思議な魅力を感じるのだと思います。



○印  
A B C D **E** F

点を提出しました

学生番号 氏名  
8209 吉野 萌美

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。  
家 (ブルー) パルティス山

一行目

他の絵と違ってこれは織り物でしょうか。それをタイトルに貼ったものでしょうか。  
縫い目のようなものが見えます。全体的に記号で構成されており、黒い線は測ったように直線だったり曲線だったりします。又、青が多く使われている背景と思える部分も、大きこの不規則な四角形にわけられ微妙に色の違う青が並べられています。この糸の太さの正確さは絵で表現するには難しいものです。ホップアートに使われたであろう作法を使わなければさついのではないでしょうか。  
このことから、絵ではなく、織り物のような作りであろうと考えられます。

次は色に注目してみました。オレンジと青色が大きく使われており、白と黒が細かいところで使われています。黒い線の部分と背景の色の変化を合わせて見ると、オレンジが囲まれている所は家のような形をしています。これは「家が暖かい所」というイメージを色にしているのではないのでしょうか。暖かい空気は下に溜まり、故に、下の方が橙の色が濃くなっているのではないのでしょうか。

作品からは、人の存在が確認できず、これは寒い外から暖かい家を見ている、という視点からの構図かもしれない。

解説

「子と母の糸会」が絵画の大元であり、彼自身「線の詩人」と呼ばれていた。彼は昔、自分の絵を模索していた。ある時、中々思いつかず根詰めていたそんな時、身近な存在である自分の子どもから発想を得る。上手い絵を描くことではなくどこまで単純に出来るか、情報量を少なくすることでより複雑な絵を画面の中に残していった。

私は描いていないとはかき思っていたが、これは絵であった。とても細かい絵であった。さらに描かれているものはエジプトのピラミッドであり、手前の門は死者の魂をつなぐものかという。私は全く絵の内容と読み取ることができなかった。道具を使わず自分の技術だけでここまで細かく絵具を塗ることが信じられないくらい、技があり素晴らしい絵だと関心せざるを得なかった。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月4日

○EP  
 A  B  C  D  E  F

点を提出しました

学生番号 氏名  
 8214 長井 千佳

タイトル

作品の題名がなかった人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「パルナッソス山」

118

細かい模様がピクセルのようにみえ、ベージュやオレンジ、ブルーの色彩が重なって美しい。家を描いているようだが、決まった輪郭が無く、形にとりあれない自由さが絵画全体から表れている。一定の決まった模様が対称的に写っており、バランス感覚が良い絵に感じる。色のコントラストがきれいで、互いの色が主張し合っていない。満月がほろかりと浮かんでいてかわいらしい。よくみると様々な色が入っていることに気づいた。光彩がたくさん見えて、きらきら光っているようだ。夜の風景だろうか、月があるからには夜なのだろう。この家の中に入ってみたい。中に入ったら部屋中が色とりどりの青でうめつくされていそうだ。夜空と一体化した家の青が不思議としこくない。家を描くならば多くの人が壁の色や、屋根の色を描くし、窓や扉も描くのではないだろうか。この絵画は、壁の色や扉の色、屋根の色が背景と一体化し、窓らしいものもないので、自由に描かれているなと思った。壁と屋根はある程度色が分かれており、直線的な線が美しい。上部分に赤が使われているようだが、細かい白色の点描が、オレンジや赤を輝かせていて、これも色彩が美しい。月を食べたい。この月は平面的でしっかりと色が塗られている。栗まんじゅうのようにみえる。扉と下の部分から茶色のグラデーションがかかり、空の青の分子1つ1つを丁寧に描いているように感じる。絵画全体を分子単位で描いているかのように、この絵はもうさを持ち合わせている。パウル・クレーのVTRを見て、こんな思いちがいをしてしまったと思ったが、「見えるものを再現するのではなく、目に見えないものを再現する」ことを志したクレーの「パルナッソス山」、一万五千を超える色彩のモザイクは、現代美術のさきがけであり、現代美術を形作った革新的な絵画だと思う。子どもの絵が原点であると考えたクレーの、他の誰の表現をも真似ることのない個性がある。無限の精神世界になっているように感じる。クレー自身の心もまた、子どものように純粋な心だったのではないかと考えてしまう。

ここまでに取りめること（裏面には書かない）

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日 6月3日

○印

図 A B C D **E** F

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8206 酒井 李果

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

タイトル

白夜と極夜 →

1行目

一目見て、最も疑問に思ったことは、この絵が表現しているのは昼なのか夜なのか、という点だった。昼ならば右上にまろく描かれているのは太陽であろう。また、夜であるのであれば月を表していることにはなる。オレンジと青がまざっているこの作品からはどちらであるかという点は何となくわからない。この昼であるのか夜であるのかわからない、ということそのものを表したかったのではないかと考えた。昼のような夜、または夜のような昼、とほましく、「白夜と極夜」とある。昼と夜がまざり合う、やや妖しげでミステリアスで、かつ幻想的な様子をこの1枚におさめたのではないだろうか。まるでパッチワークのようなデザインにどこかめくもりを感じるとともに、やや寒色が多めのこの配色から静けさを感じる不思議な作品だ。唯一線として、より区切られているのは、建物とあらかわ屋根と扉の2ヶ所の黒線のみで、その他はあまり目立っていない。このことからやはり作者はこの絵全体の雰囲気が一番表現したかったのではないかと感じた。

解説を  
書いて

この家のように見えたものがどうも、精神的な高まりを目的として描かれているものと知り、この作者の線と色彩のセレクトのセンスに高まりを感じた。素朴な作品であるのだが、だからこその線に伝わりようとしていることの主張が強いことが理解できる。点を合わせて彩色していくという技法は特殊な技法なのだろうと思うが、それは1つ1つの色を大切にしていたのではないかと感じる。地道に、ん...ん...と色を置いていくことで、1つ1つの色に意味を持たせることができる。精神的な高まりを表現しようとした彼の意志が伝わってくるように思う。私が一生懸命に考えていた、昼なのか、夜なのか、という疑問は本当の意味では、どうでもよい疑問であった。ただ不思議な点では、神秘的で、見ている人の心に直接働きかけるような作品なのだ。昼なのか、夜なのか、という疑問を真面目に考えていたことに恥ずかさは感じない。そのような細かい疑問をたずねずに、ただ黙って無心になってこの絵の前に座り、鑑賞するということを純粹に楽しんでおいた。

○印  
A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名  
8202 山館 未来

タイトル  
作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。  
家の灯火

全体的にモザイクタイルのようが、1p47-7のようが、ツギハシになっている。この画像でははっきりわからず、Tの形で、布か、紙か、セーヌ紙かを使っているようにも見えました。全体的に図形的で、線が描き出されていて、どこでも固まってくるように見えて、いのは産根に見え、線が、手描き風なのと、この1p47-7のようになっているのと、あるから7pのA7と、思いました。Aの明か、家のドアの周りの色が同じようで、まるでドアから光がもたれているようで、青が深山使われているのと、ここが温かく感じます。右側の茶色は、木の板のように見えます。もしくは、たかしのさけ月のようにも見えます。解説をきいて、まず「線の詩人」というか、と、えい、と、とても素敵で、的を得ているなと、感じました。7pの子どもの絵に、ひかえ、た、ポイントを書き、とても同感しました。美術文化基礎で、教わった子どもの絵の可能性、私も、すこしく、ひかえ、た、から、です。こうやって、い、れ、て、から、7pのこの絵を見ると、子どもの線に、似、た、何か、を、感じ、ます。た、から、この、絵、が、好、か、た、と、感じ、た、の、か、も、あ、い、わ、い、て、可、す。この、絵、が、細、い、で、ある、よ、う、に、見、え、た、の、は、1筆、1筆、細、か、く、モ、ザ、イ、ク、タ、イ、ル、の、か、ら、描、か、れ、て、い、る、か、ら、7pの、か、と、感、心、し、ま、し、た。そして、これは、どう、し、た、か、と、思、い、ま、し、た。解説を、き、く、前、と、後、で、は、や、ほ、り、感、心、し、る、こ、と、が、変、わ、り、と、て、も、前、白、い、が、と、思、い、ま、し、た。まず、前、に、勝、手、に、現、像、を、見、く、ら、ま、す、の、も、き、い、て、か、ら、そ、う、た、ら、た、の、か、と、感、得、可、い、の、も、と、て、も、楽、し、か、つ、た、と、思、い、ま、し、た。自分、の、線、を、見、つ、け、た、い、と、思、い、ま、し、た。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月4日

○印

図 A B C D **E** F

点を提出しました

学生番号 8208 氏名 横谷 ゆき乃

タイトルの欄: 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。  
 夜 ⑤パルナッリスへ

モザイク画のようなタッチがとても印象的な絵です。以前見た、絵の具を塗った梱包材(アチアチ)を画面に当てて、梱包材の柄を写すという描き方を思い出しました。抽象のような具象のような曖昧な絵ですが、私は家と月を描いているのかなと思いました。画面上の斜めの線が屋根、黄色の円が月、赤っぽい細長い三角形が雲、画面下のアーチ状の線が扉。という風に見えます。円の色がオレンジに近いので、太陽とも思いましたが、全体的なトーンの低さや青っぽさの感じは、やはり夜に見えます。単純な線や形でも、その線の位置や近くにある線の形や色によって、ある特定の物がイメージされるというのが面白いです。例えば、この円の色が赤だったら、太陽やリングをイメージしたと思います。

解説、説明関係ありませんでした。すげえ。